

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部



令和六年七月度 入賞句一覧

投句数 六百 句

持選

大堀 武直 選

十薬を干すや主治医を持たぬ母

東京都世田谷区 関戸 信治

「十薬」の名は十種の薬を合わせたような薬効があるからと言う。毒下し・はれ物・創傷などに服用したり揉んで張ったりする。以前は医者にあまり行かず、いろいろな薬草を利用していたものだ。 豊鏝とした母親像が浮かんで来る。

島上げて祝う開院麦の秋

埼玉県東松山市 谷本 だつく

「麦の秋」は五月から七月にかけて麦が実り一面が黄色になる頃、収穫の意味を併せて風景と時季を言う。待ちに待った医院が開院した。島人は大喜びだ。麦畑の黄と海の緑と空の青の風景が心地好い。 季語の効果がよく表れている。

奥座敷大の字の児とゐて涼し

養老郡養老町 山田 順子

お孫さんと「昼寝」をしているのであろう。大の字ですやすやと眠る児の傍に居て、なんとも言えない幸福感が湧いて来る。それを季語「涼し」に託した。 また、この句から「夏座敷」「風涼し」などもイメージされる。

秀逸

山法師急がぬ旅の駅広場

福井県敦賀市 山田 美千代

里人の言葉やさしき夏つばめ

大垣市 大角 信華

鉄塔の巨人めきたる夕焼空

東京都新宿区 花澤 ちいこ

フイアンセもバツグも舶来風薫る

大垣市 種田 美弥子

青水無月いのち宿るを告げらるる

埼玉県川口市 吉永 寿美子

静寂に墨の香のたち青葉雨

不破郡垂井町 川瀬 慶泉

供花絶えしキリシタン塚黒揚羽

大垣市 小林 研

走り梅雨郵便受けに不在票

揖斐郡大野町 横山 道男

白南風や山を指したる風見鶏

各務原市 左高 富美

夏蝶の路地抜けられず先斗町

京都府京都市 石田 吉之助

入選

鶏小屋の屋根たつぷりの水を打つ

安八郡輪之内町 野村 照子

川灯台青葉の中に見え隠れ

揖斐郡揖斐川町 松川 紘基

万緑や赤シャツ羽織り闊歩する

海津市平田町 山川 すす

古民家の一家絵出の簾賭け

海津市 水谷 勲一

菜殻火の畑に残して聞せまる

不破郡垂井町 児玉 信子

葎切や読む人もなき治水の碑

大垣市 村田 通夫

高々と竿持ち上げり毛虫焼く

大垣市 尾関 逸子

千枚の植田やま風うみの風

大垣市 田中 雅子

天辺は涼しいですか鴉さん

京都府宇治市 八田 弥須子

追いつけずどくだみ増えて老夫婦

大垣市 米山 春江

汗拭ひ若僧馴れぬ法話説く

安八郡神戸町 早津 郁男

夏帽子ギプスのままに退院す

わたなべ 美乃理

時々はフレンチトースト梅雨の空

愛知県豊明市 希凜咲女

古文書の紙縫のほつれ梅雨湿り

三重県三重郡 水野 悦子

教頭の麦藁帽子よく歩く

愛媛県松山市 平野 ヒサエ

選者吟

AIの女性に恋を梅雨じめり

武 直

一般の部

